

資料 4

第 2 1 回微量 P C B 廃棄物処理事業に係る地域環境委員会議事要旨

1. 日 時

令和 4 年 7 月 2 8 日（木） 15 : 30 ~ 16 : 55

2. 場 所

ホテルイースト 2 1 東京 3 階 永代の間

3. 出席者

【委 員】 浦野委員長、小林副委員長、板津委員、風祭委員、加納委員、
 劔先委員、瀧澤委員、橋本委員、干泥委員 （五十音順）

※豊洲地区連合会からの申し出により、委員が今回から 1 名減となった。

【事業者】 (株) J E R A 国内事業運営・開発統括部 国内事業運営部
 国内事業計画・管理ユニット総括ユニット 川原ユニット長
 J & T 環境(株) 東京事業本部 武藤東京事業本部長
 東京事業本部 柄澤副本部長
 東京臨海エコクリーン 中野工場長

【傍聴者】 なし

4. 東京事業本部長挨拶

- ・委員会を対面で開催するのは久しぶり
- ・新型コロナの影響があった中でも、エッセンシャルワーカーとして、事業を継続してきており、
 微量 PCB の受入、処理も特段の問題もなく進めている。
- ・改めて、ご意見・ご指導をお願いする。

5. 各委員挨拶

会議体での開催が久しぶりであり、委員の 7 名が変更となっているため、委員長以下全員の委員からご挨拶を頂いた。

6. 議 事

資料 3 に基づき、微量 P C B 汚染絶縁油の処理状況、環境モニタリング結果、安全対策の実施状況、その他のトピックについて報告した。

主な質疑、意見は以下の通り。（「○」：委員、「□」：事務局）

(1) 微量 PCB 汚染絶縁油の処理状況について（資料 3 スライド 3 ~ 6）

○大口事業者との契約が終了したということだが、東京電力さんとかその関連会社だと思うが、そう

いった事業者は PCB の処理は終わる見込みなのか？

- 大口事業者は東京電力さん 1 社です。大口事業者さんの現在の PCB 保有状況は、私ども処理業者では情報を把握しておりません……。が、今回の契約（結局負けてしまいましたが）で処理が完了するようなことをにおわせていたので、収束の段階にいるのだらうと思います。
- 確認なんです、4 ページでは今年の 6 月までに 307 トン処理したと記載があり、6 ページの方では 7 月～10 月に処理するとなっている。どういうことか？
- 4 ページは実績、6 ページは令和 4 年 3 月時点の処理計画となります。
3 月時点では、今年度の受入は、次の契約が結べる 7 月から 10 月に毎月 100 トン程度を見込んでいました。ところが、見込んでなかった 4 月～6 月に受入があり、7 月以降については、契約が結ばずに終了したということです。
- 大口事業者の契約が終了したということですが、その他の事業者の受入はどうなるのか？
- 大口事業者からの受入割合は 99.8% でその他の事業者は 0.2% にすぎません。平成 30 年に受入があったのを最後に受入はありませんので、見込んでいません。
- その他事業者の受入が少ない理由は何かあるのか？
- PCB 電気機器は金属製の容器の中に絶縁油が入っていますが、弊社では、中の油しか処理できないことが大きな要因と思います。PCB 機器を保有している会社にとってみれば、絶縁油と一緒に容器の処理もしないと意味がありません。弊社以外の所で、容器と油と一緒に処理できる施設がありますので、入荷が少ないものと思われる。

(2) 環境モニタリング状況について（資料 3 スライド 7～11）

- 8 ページの 3 番目に廃棄物のダイオキシン類濃度を測定した結果があるが、どんな廃棄物か？
- ばいじん、スラグ、燃え殻です。ばいじんはバグフィルターで補足した飛灰です。スラグは熔融スラグ、燃え殻は、ガス化炉でガス化しなかった金属くずやガラス陶磁器くずになります。
- 11 ページ目の敷地境界ダイオキシン類濃度についてですが、グラフのとおりに一時期、高目の値が続いていて東京都としてもだいぶ心配していた。いろんな対策をしてもらって、低く落ち着いてきていることに感謝する。今後も継続してしてもらいたい。

(3) 安全対策について（資料 3 スライド 12～20）

- このような火災事故はなかったのか？
- 2 年前、4 年前に同様な火災があった。都度、再発防止対策を講じてきたが、撲滅には至らなかった。
- 16 ページで 2 点質問。日常的に行っている安全活動と、特別安全衛生活動とはどう違うのか？ また、経営層に中間報告されたら報告あったが、具体的にどのような効果があったのかエピソード等あれば伺いたい。
- 今回の特別安全衛生活動は、非常作業時の事前リスク分析が弱かったことなどに起因する災害が起きたことから、特別に社長が指定して取り組んでいるものである。非常作業時のリスク

分析能力向上という成果が出始めているとともに作業員とのコミュニケーション活動の中で現場のヒヤリハットのなものが拾い上げられるようになり、災害の未然防止という成果も出ていると評価している。

- 20ページ目で「2時間連続で0.5 t/hを下回った場合にチューブリークの調査を行う」とあるが、プラントを停止する判断までに時間がかかるようなことはないか？
- 例えばボイラブロー弁のシートリークなどがあつた場合も流量差が生じますので、まずはこの調査を行います。時間はかかりません。ブロー弁に異常がなかった場合には、チューブリーク疑いとしてプラントを停止することにしておりますので、停止判断に時間は要しません。
- 担当者が状況をみでの判断となるのか？
- 移動平均値で0.5 t/h以下となった場合に警報を出す様にして、運転員に知らせるように改造した。運転員任せではなく、毎日の朝会で日勤者を含めて流量差の傾向を確認するようにしている。
- 以前は流量差0 t/hを管理値としていた、今回の火災を踏まえて0.5 t/hと管理値を安全側に見直した。早めの対応により調査時間に裕度を持たせ、的確な判断ができるようにした。
- ストーカ炉の経験では給水/蒸気流量は安定してこんなに変動しなかった。流動床では蒸気流量の変動が高いようだがこのようなものなのか？
- ごみの攪拌、混合を行うが、均一にはならず、入熱が変わるので蒸気量変動するものと思います。
- 計測器や伝送器の特性とかではないか？定検の時に調べるなどしてはどうか？
- 担当の者に伝え、調べるようにします。
- ボイラ肉厚検査は行っていると思うが、異常は無かったか？
- 基準値を下回る肉厚結果となった場合は、肉盛り溶接して対応している。
- 熱量の変動ということだったが、熱量は測定して調整することはないのか
- 熱量の測定はしていない。いろんな種類のごみをできるだけ混合して均一になるように調整している
- 熱量がモニターできれば変動の要因がはっきりつかめるかも。
- 耐食性の材料に変更したようだが、水管が曲がっているような弱い部分の管理はどのようにしているか？
- 曲がりの代表的なマンホール付近の水管について、肉厚検査を実施している。
- 弱い部分とそうでない部分の色分けして区別したりとか？
- 今回の大修理の期間でまさに弱い部分である3パスの側壁管の取替を行った。
3パスの上流側には耐火材があるのに対して、この部分は管剥き出しの箇所であり、減肉が起こりやすい箇所となっていた。
- 穴が開く前に交換するとかの管理は？
- 前述のように肉厚管理を行っており、必要に応じて補修している。3パスは広範囲に更新するこ

とした。

(4) PCB処理事業の廃止について(資料3 スライド21～24)

- 洗浄に使用する油は何か? 普段使っている油か? 調達量はいつもと同じか?
- 普段から購入している油で洗浄する。調達量は通常より増加する。通常の使用分に加え洗浄分が増加する。
- 環境省への相談内容を具体的に教えてほしい。
- 洗浄方法と廃止手続きについて相談した。洗浄方法については、まず PCB を処理してタンクレベルを下げる。洗浄油を受け入れて、中の PCB 濃度を下げる。それを PCB として処理。次にタンクレベル上限まで洗浄油を受け入れて、0.5 mg/kg 以下まで下げて、配管の循環洗浄を行い、配管内面に付着している油の PCB 濃度を下げる洗浄を提案し、了承された。
- 環境省の人事異動で担当者が変わることによる認識違いがおきたりしないか?
- 環境省だけでなく、産廃処理事業振興財団の方も同席して頂いており、認識違いはないように進めています。

□次回の委員会開催については、来年1月末頃を目途に別途ご相談させていただきたい。

以上